

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成30年9月13日(2018.9.13)

【公開番号】特開2017-111398(P2017-111398A)

【公開日】平成29年6月22日(2017.6.22)

【年通号数】公開・登録公報2017-023

【出願番号】特願2015-247720(P2015-247720)

【国際特許分類】

G 02 B	5/20	(2006.01)
G 03 F	7/004	(2006.01)
G 02 F	1/1335	(2006.01)
C 09 B	67/20	(2006.01)
C 09 B	47/08	(2006.01)
C 09 B	67/46	(2006.01)

【F I】

G 02 B	5/20	1 0 1
G 03 F	7/004	5 0 5
G 03 F	7/004	5 0 4
G 02 F	1/1335	5 0 5
C 09 B	67/20	G
C 09 B	47/08	
C 09 B	67/20	L
C 09 B	67/46	A

【手続補正書】

【提出日】平成30年8月1日(2018.8.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0143

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0143】

(微細化顔料(PB-11))

臭化アルミニウム203部、臭化ナトリウム47部および臭化第二鉄5部を加温して溶融し、140で式(58)で表されるフタロシアニン顔料50部を加えた。160にて昇温して臭素215.4部を吹き込みながら、160にて7時間反応させた。3の氷水2500部に上記反応混合物を注入し、析出した固体をろ取し、水洗した。残渣を1%塩酸水溶液、温水、1%水酸化ナトリウム水溶液洗、温水の順で洗浄し、その後、乾燥して臭素化アルミニウムフタロシアニン98部を得た。得られた粗製臭素化アルミニウムフタロシアニンを濃硫酸980部に溶解し、50で3時間攪拌した。その後、3の氷水9800部に上記硫酸溶液を注入し、析出した固体をろ取、水洗し、乾燥させた。次いでビーカーに2.5%水酸化ナトリウム水溶液500部、ろ取した残渣を加え、80、1時間攪拌した。その後、この混合物をろ取、水洗、乾燥して、フタロシアニン環に臭素原子が平均で15.0個置換された顔料を得た。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0144

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 4 4】

次に、3口フラスコに、N-メチルピロリドンを500部、得られたフタロシアニン環に臭素原子が平均で15.0個置換された顔料を50部およびリン酸ジフェニル10.8部を加え、90℃に加熱し、8時間反応させた。これを室温まで冷却後、生成物をろ過し、メタノールで洗浄後、乾燥させて、下記式(63)で表されるフタロシアニン顔料(PB-11)を得た。得られた着色剤の体積平均一次粒子径は31nmであった。

式(63)

【化31】

